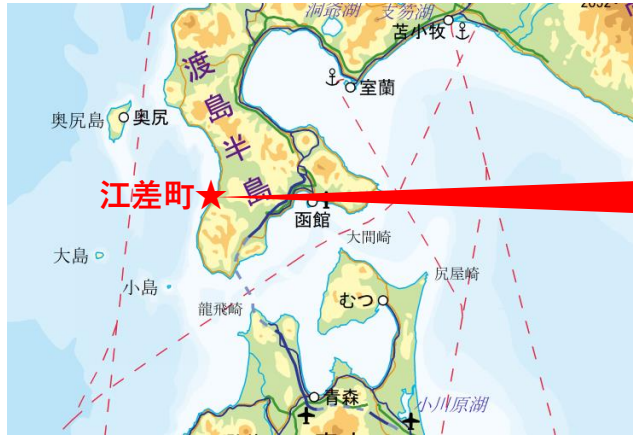


# マリumpingによる港湾・海岸の観光振興

かもめ島マリumping～海と日本PROJECT～  
一般社団法人 北海道江差観光みらい機構



# 北海道江差町のシンボル、「鷗島」について



周囲約2.6km・海拔約30m、  
防波堤で街と結ばれている島

## 一海の恩恵を受ける一島の特徴

■ 檜山道立自然公園 特別エリア

～ 車両や自転車での渡行ができない環境に、野鳥129種、多くの海浜植物が自生する、自然豊かな島。エリア指定以前より、頂上エリアは町営の野営キャンプ場。

■ 日本の夕陽百選に選定

～ 島から望む、日本海に沈む夕陽が美しい。

■ 「日本遺産」認定ゆかりの地

～ 江差町の繁栄の礎となった「ニシン漁と北前交易のストーリー」が日本遺産認定。北前船の係船場所が鷗島であり、係船跡や千畳敷・巖島神社等の観光スポット有。

■ 港湾と3つのビーチに隣接

～ 港湾・奥尻島へのフェリー乗り場、特徴の異なる3つのビーチに隣接する。

■ 「開陽丸記念館」が隣接

～ 旧幕府軍軍艦が江差沖で沈没したため、海中遺跡・考古学資料館がある。



# ロケーション・活動エリア



市街地

マリーナエリア

南半島エリア

港湾エリア

千畳敷エリア

フィッシングエリア

江差港マリーナ★

★開陽丸記念館

奇岩「義経の馬岩」★

★奇岩「弁慶の足跡」

★えびす浜海水浴場

★鷗島灯台

★海保巡視船「かむい」

★前浜ビーチ

★島上野営キャンプ場

★五郎兵衛浜ビーチ

★巖島神社

←開陽丸沈没地点

★北前船係船跡★

# ■「かもめ島マリンピング」の概要

**アウトドア宿泊 + 海洋体験 + イベント他** の3要素からなる、ロングラン（5～10月）イベント

「マリン(海)」+「グランピング(豪華なキャンプ)」の造語である「マリンピング」でブランド化

## アウトドア宿泊

### ●マリンピングテント宿泊



## 海洋体験

### ●カニ釣り



### ●海釣り



### ●マリンカイト



### ●各種ガイドウォーク



## イベント他

### ●手ぶらキャンプ宿泊



### ●サザエさんコラボ



### ●ウォーターバルーン



### ●ジュニア海洋研究



### ●キッズキャンプ



他、●学校連携(体験開発・特別講義・遠足受入)●写真展(函館)●サイネージ(ススキノ)等

ブランド・プロミス  
「海との遭遇 / 再会」

# ■ゼロから構築した「アウトドア宿泊」

→北海道および町との連携・協力体制のもと、自然公園使用申請および埋設文化財保護を行いながら実施

野営キャンプ場のエリア内を活用した、アウトドアシーズン限定のかもめ島宿泊モデルをゼロから構築。

2022年度では **53組 143名** が利用。**95%**上回る顧客満足度。

手ぶらキャンプは、5基体制で稼働。



グランピングテントは、1基のみで稼働。



■ホスピタリティ・ファーストの、アナログ・サービスを重視。

■ニーズに合わせた、セミオーダー式サポートを展開。

■地域PRと経済的地域還元の観点で、地域産品・地元業者採用を徹底。

■町との連携で「町民特別割」「ふるさとチョイス」の実施。

■セットに海洋体験をインクルードし、ブランド化。

■野営キャンプ場としてのハード面の脆弱点もサービスでカバー。

※町内温泉施設セット販売 ※配膳・サーブ・下膳、焚き火までフルサービス

■WEB予約サービスも導入し、顧客の利用上の利便性も向上

# ■持続可能な「海洋体験コンテンツ」の開拓

2022年度 3コース選択式の島ガイド → 2023年度より、セミオーダー方式へ  
 「趣味・志向の多様性」「観光客の少人数化」などを見据え、島のガイドウォークに必要な「歴史・文化・伝承」「自然・地質」「水中考古学」「海洋学習」などの知識を担当職員が習熟することで、より多様なニーズに対応していく。



→また、町民連携および江差海上保安署との連携・協力体制のもと、「SUP」を2023年度より提供

## 2023年度より、町民インストラクターによる「SUP体験」を提供

「安定人材の育成と確保」「町民スポーツとしての定着」の観点から、町民ガイド候補生のインストラクター資格取得を全面サポート。今期4名の合格者にて、2023年度より持ち回りで一般へのSUP体験ガイドを提供する。候補生の受講費ならびに資格取得料の全額補助にあわせ、ガイドとして協力の際は報酬制を採用するため、新たな趣味や副業の場として参加していただいている。

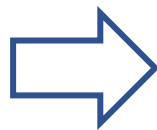


一過性の観光振興コンテンツにならないよう、  
**「人材の育成」「人材の確保」「技能の継承」**が、  
 自然に行われる仕組みと気運作りを実践。

# ■露出やイベント開催など、活動による波及効果の獲得①



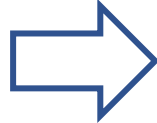
かもめ島マリumpingは「日本財団 海と日本PROJECT」の助成事業イベント。



島の祭り内で「サザエさん」コラボイベントが実現。マリumpingの主催で、大きな話題性あるコーナーを実現。



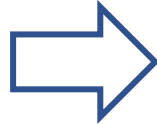
複数媒体のメディア露出（2022実績48回）による認知度の向上。



函館国際ホテルより、企画写真展「出会いの海、かもめ島」が実現（2022年5月の3週間）。



緊密な連携体制を構築している江差町からの推薦。

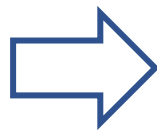


札幌市ススキノ交差点サイネージでマリumpingCM放映が実現（2022年6～9月の4か月間）。

# ■露出やイベント開催など、活動による波及効果の獲得②



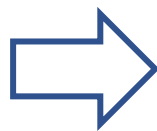
地元高校との連携「江差高校地域学×マリピング」として、教育旅行向け体験プログラム作りに挑戦する通年イベント実施。



「地域伝統芸能部門」「海洋観察部門」「芸術・アート部門」3つのコースが完成、来年度以降商品化予定。



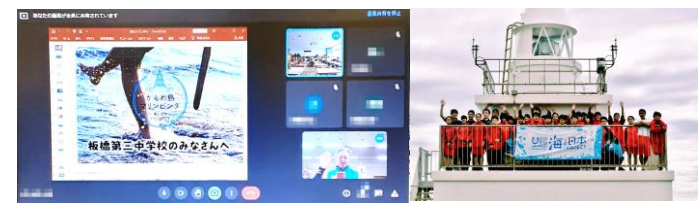
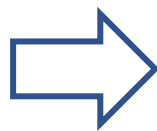
地域海洋研究の子ども向け通年イベント「みらいジュニア研究員」を、北海道大学 国際教育室協力のもと計4回開催。



前述「海洋観察部門」用マップデータを集積、確認種データは今後の体験コンテンツに有用。



前述イベントのほか「キッズキャンプ」などの単発イベントを多数開催。



学校機関からの「特別授業」「専任講師」依頼や「遠足受入」などに波及。

ほか、2023年度に

- 日本ビーチ文化振興協会のビーチ視察予定
- アドベンチャー・ツーリズムへの参画
- 「サマースクール」（キッズキャンプ・みらいジュニア研究員のノウハウ集約）を計画



# ■ 港湾・海岸の体験観光活用の可能性(経験から)

## ー 「モノ観光」から「コト観光へ」ー

これまで取り組みがなくても、大型施設（ハード）がなくとも、地元目線で魅力が見いだせなくても、十分可能性あり。

### ■ 体験を求める、という観光ニーズの変容

→観光施設を巡るのではなく、体験やローカルな感動を求められている

例) 漁業体験やマリンスポーツ、海洋イベントなど



### ■ 人材不足でも、人材は地域に埋もれている

→「一次産業のプロ（従事者）」「シニアボランティア」「地域振興への思いが強い人」

### ■ 地域の魅力は、訪れた人が教えてくれる

→地元民の気付かない長所や気付きをもたらしてくれるので、小さな取り組みでも実施して意見を聞くのが大切

### ■ 港湾や岩礁部は「野鳥観察」適地

→秋から冬にかけて、あまり知られていないが海鳥などの恰好の採餌場・休息地になる



### ■ ニッチでも喜ばれる海辺でのイベント

→自身に海のノウハウがない人々は、近圏で海洋体験ができる場所を求めている

→競合イベントが少なく情報量も少ないため、興味ある人が遠方からも参加してもらえる

例) バードウォッチング、シーグラス収集、石拾いやビーチコーミング、海藻押し葉など

### ■ 地域らしさ（その地域で開催される必然性）のある取り組みが重要

→どこでもできる「そば打ち体験」より「港見学イベント」～「海」という魅力があるアドバンテージの活用を

→その地域の歴史や風土、地形などをテーマに据え、「訪問する意義」を設定すること

### ■ 熱意があり、実績を積み重ねれば、人や組織が動きだしてくれる

→漁協や海保、自治体から評価の得られる取り組みを継続的に行えば、取り組みへの理解が進む



UNKNOWN ISLAND

◀◀ かもめ島マリンピング ▶▶

≡ 海と日本PROJECT ≡

「 海との遭遇 / 再会 」

